

宗祇法師を偲ぶ会

六月十九日

長引くコロナ禍のため、今年も偲ぶ会は縮小を余儀なくされました。役員八名の参加の下、墓所のお参りに続き中村住職による読経、小林静司宗匠捌の歌仙「残る雁」朗詠を行い宗祇を偲びました。

これまでのように多くの会員の皆さんと共に偲ぶ会を開催できる日が待たれます。



夏休み市民連句会

令和四年八月十一日
於 桃園集会所

コロナ禍でしたが、十名の参加があり今年も市民連句会を開催することができました。感染対策の上、二組に分かれて半歌仙を巻きました。

次年度は連句授業を経験した中学生の参加を楽しみにしています。実施日は毎年八月十一日の山の日と定めましたので多くの市民の皆様に参加をお待ちしています。



半歌仙「蝉しぐれ」の巻

捌 土屋 日菜

蝉しぐれ序奏は静か裏の山 佐野 仙由

樹々の透き間に赤き夏菜葉 土屋 日菜

集会所太鼓練習賑やかに 水野 森雄

高速道を目指す故郷 井上 輝夫

月明り照らす荒城夢のあと 仙由

秋の小袖の似合う姫君 輝夫

肌寒に二人の想いより深め 桃井 伴子

行方も知らぬ恋に突入 日菜

コロナにて世界経済曲がり角 森雄

パンドウーラ弾くウクライナびと 仙由

穀物を船積み済ませ出航す 輝夫

童話聴き入る子等の愛しき 伴子

金目鯛姿煮旨し旅の宿 森雄

能登の砂丘に寒暁の月 日菜

新設の青空市を品定め 輝夫

牛蒡はみ出す自転車籠 仙由

珈琲の香に花弁の舞う窓辺 伴子

酒樽囲み日永楽しむ 森雄

半歌仙「日の匂い」の巻

捌 勝又 丘女

夏衣箆筒にしまう日の匂い 勝又 丘女

帰省の子等の駆けまわる庭 賀茂 博美

甲子園上がる歓声テレビにて 佐野 彰一

未来を創る郷土(くに)の活力 窪田 浩晃

満月の揺れる水面に釣り小舟 鴻巣 洋子

忘れ団扇に墨書きの詩 丘女

金毘羅寺磴で拾いし桐一葉 博美

旅日記練る若きあの頃 彰一

雑踏に君の面影追い求め 浩晃

触れ合う肌の熱き温もり 博美

勝負飯ねぎとる温玉いくら丼 丘女

ファッショナブルな山ガール行く 浩晃

熱燗で語る時勢はウクライナ 彰一

月冴え冴えと獣道刺し 丘女

北条の波乱万丈戦国史 博美

幕間に響く太鼓竜笛 彰一

村辻の人の目奪う枝垂れ花 浩晃

仔猫の声に振り返る坂 博美